

障がい等地域支援ブロック会議報告(平成30年7月～平成30年12月)

資料2

月	参加機関数	参加者数	担当機関名	事例タイトル	検討項目	意見	課題
7	21	28	あゆみ	自閉症の方に対する就労支援について	<ul style="list-style-type: none"> ・こだわりが強く、なかなか支援者の意見を受け入れられない場合、どのように対応すべきか。どうすれば本人が納得してくれるのか。 ・一般就労を希望しているが、本人の集中力が持続しないため、現在の就労移行支援、就労継続支援A型も合っていないなか、どのように支援していけばよいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援の方向性が見えていない ・本人の意向と関係者の思いのずれのすり合わせ(アセスメント) ・できること・できないことについて、本人と支援者が一緒に検討すべき ・本人の思いを目標としてかなえていくために必要なことについて、十分に話し合う ・本人への伝え方も工夫がいるのでは 	自閉症の方に対する就労支援において、本人の意向と関係者の思い(支援方法)をどうあわせていくべきか。
8	28	37	ぴあ南風	発達障害の疑いがあるひきこもりの姉と、視覚障害の弟の二人世帯への支援について	<ul style="list-style-type: none"> ・貯蓄が減っているため本人は就労したい気持ちがあるが、外出すると姉が勝手に自分の物を壊したりとったりするのはとっており、週2回の生活介護がやっとの状況。本人の生活を安定させるために、姉に対してどのように支援していけばよいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり姉への支援者をつくる ・金銭管理の不安。権利擁護・後見人制度を使うべき ・健康管理の不安 ・本人の仕事への思いが聞き取れていない(就労意欲) 	発達障害やひきこもり等、拒否が強く支援者がついていない障害者へのアプローチ方法について、どうすべきか。
9	19	21	神原苑	介護保険制度移行への支援について	<ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉サービスから介護保険サービスへ円滑に移行していくにはどのような支援をしていけばよいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険の受け入れが難しい ・ある程度時間をかけて、介護と障害の両方の支援者が一緒に関わり受け入れしてもらうことが大切(介護移行の準備) ・移行が難しいのは障害受容もできていないから(障害理解) ・支援内容の変更が難しいのはこだわりが強いため(障害特性に応じた支援) 	介護保険・障害福祉関係者に対し、さらなる制度理解や連携を促進していくためにはどうすべきか。
10	62	111	ケアマネ協議会との合同研修	講義「介護保険制度へのスムーズな移行に向けて～相談支援専門員の思い～」事例「介護・障害サービスを併用しながら、地域で支えるために」	<ul style="list-style-type: none"> 精神障害の特性により、環境変化や支援者の変更に対する受け入れが難しい場合、どのように障害福祉サービスから介護保険サービスに移行していけばよいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・双方の支援者が十分に制度を理解していく。支援者、本人の制度の理解、情報共有(介護移行の準備) ・時間をかけたひきつぎ ・地域のインフォーマルなサービスとの連携 ・地域のサロンなどでは、障害特性によっては現実的に受け入れが難しいこともある ・当事者が隠してきた状況もあり、地域が理解して受け入れてもらうには時間がかかる 	障害から介護への移行に対し、当事者の意識や受け入れをスムーズにしていくにはどうすべきか。地域に障害特性を理解してもらい、受け入れてもらうためにはどうすべきか。

月	参加機関数	参加者数	担当機関名	事例タイトル	検討項目	意見	課題
11	22	26	山口県立こころの医療センター	家庭内支援で満足しており、社会資源に結びつかない高次脳機能障害をもつケースの支援について	病識が低く、支援につながらない場合、どのように関わっていけばよいか。	<ul style="list-style-type: none"> ・本人が病識を持てるような支援が必要。(障害理解) ・金銭管理も出来ていないので、支援が必要(権利擁護・後見人制度) ・家族だけでサポートしているが、親亡き後の支援について、本人・家族とももっと認識してもらう必要がある ・本人が希望しているフォーマルな支援がない(障害特性に応じた支援)が、代替案を考えるべき 	高次脳機能障害に関する理解促進を進めていくためにはどうすべきか。
12	19	21	は一とけあさんちの相談支援	発達障害の方が就労継続支援B型に元気に通えるようになるためには	不登校から長年ひきこもり生活をしていた。本人の希望により就労継続支援B型を利用開始したが、月に1~2回しか行くことができていない。どのように支援すべきか。	<ul style="list-style-type: none"> ・就労B型というサービスが本人にあっているか再検討し、他サービスを案内すべき(ひきこもり、障害特性に応じた支援) ・就労意欲につながる目的をもっともたせる(就労意欲) ・本人の好きなもの、やりたいことを見つけられるとよい ・日常生活能力等のアセスメントをもっと充実すべき ・家族も本人が日中何をしているのか把握していなかったことから、家族も障害理解が不足している ・ひきこもり相談支援事業所ともっと連携すべき 	発達障害の特性から、本人だけでなく、家族からも支援者に対し十分な情報発信がなく、アセスメントが難しい場合、どのように支援していけばよいか。